



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2023年11月24日

全教北九州

検索

給与改定交渉 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

教員は何を頑張れば給与で報いられるのか

令和7年度からの勤務成績による賃金リンク導入は再考を

2023年 給与改定交渉

今年度の給与改定交渉が終了しました。今回の給与改定では物価上昇分を補うには全く足りませんが、全員のプラス改定とこれまで全教北九州が要求してきた再任用教職員の給与増額と会計年度任用職員への勤勉手当支給も実現しました。また、令和7年度から勤務成績の賃金リンクを導入すると明らかにしました。

教員にも子どもにも問題しかない「賃金リンク」

今回の交渉では、勤務成績を給与に反映させる制度の導入について時間を費やしました。これは特に優秀な勤務成績（総合評価A）の教職員の給与を、昇給により引き上げるといふものです。昇給を享受できるのは全体の10%程度にすぎません。

教育委員会は、この制度改正で「頑張っている教員に対し給与をあげることで報いたい」と言います。しかし、どのような「結果」に着目して、「成果」とみなすのかというのは極めて困難な問題であり、

「頑張る」教員を公平・公正に評価できるのか多くの教職員が疑問をもっています。

また、勤務成績を給与に反映させることで、教員間に大きな賃金格差が生じます。さらに良い成績を得るために、評価を実施する管理職の意向に沿った教育活動が行われ、教員間・学校間で学力テストの点数などの可視化しやすい「結果」を競いあい、自らに長時間労働を強いられることも考えられます。

文部科学省の21年度「不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書」では、小学生が最初に学校に行きづらいつと感じ始めたきっかけで

一番割合が高いものは「先生のこと（先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）」が30%であったことが明らかにされています。教員が「結果」を競いあう学校は、このような子どもたちを増やすのではないのでしょうか。

「勤務成績の賃金リンク」は教育現場で大切にされてきた共同の精神だけでなく、子どもたちの学びも破壊する危険性のある、問題しかない制度改正です。

「賃金リンク」より働き方に見合った待遇改善を

教育委員会は「賃金リンク」より、働き方に見合った賃金増額などの待遇改善など、任用の形態を問わずすべての教職員が享受できる施策を教職員に示すべきです。全教北九州は、勤務成績を給与に反映すべきではないと主張し、制度導入について再考するよう要求しました。

給与改定のポイント

1. 給与表の改定（平均改定率）

	再任用以外	再任用
小中学校教諭	1.82% (6060円)	2000円増額
特支教諭	2.00% (6443円)	2000円増額
行政職	1.33% (4193円)	2000円増額

2. 会計年度任用職員の給与・報酬の改定

- ・ 期末手当の支給月数改定を当年度から実施
- ・ 勤勉手当を新たに導入（2024年度から）
- ・ 改定時期は2023年4月1日に遡及して行う（但し、週15.5時間未満の人は12月1日から）

3. 期末勤勉手当

	再任用以外	再任用	会計年度
R5年度冬季	2.30月	1.20月	1.25月
R6年度夏季	2.25月	1.175月	2.25月

4. 55歳未満の昇給制度の改正

- ・ 特に優秀な勤務成績（総合評価A）であった教職員の昇給の号給数を普通4号給から5号給に
- ・ 評価は絶対評価、Aは概ね10%程度

5. 夜間中学の勤務労働条件

- ・ 勤務時間は13時から21時30分（休憩時間除く）
- ・ 三期休業期間中の勤務時間は原則8時30分から17時
- ・ 夜間中学指導業務手当（新設）は日額700円、会計年度任用職員も同額

6. 早期希望退職

- ・ 正規職員中、退職日現在45歳以上57歳未満の者
- ・ 加算は、45歳の者を45%とし、以後1年につき3%逡減、56歳の者で12%

7. 被服貸与基準、消耗品配付基準の改正

- ・ 体育教員への柔剣道着、トレーニングウェア、シューズの貸与廃止

8. 教職員の「夏季における健康保持」を理由とする特別休暇取得要件変更

- ・ 6月1日から10月30日の間に変更

9. 病気休暇の承認方法の改正

- ・ 新型コロナウイルス感染症で6日以内の病休取得の場合、医師の診察等を確認できる書類を診断書に変えることができる（インフルエンザと同じ扱い）

北九州の戦争遺跡

第12旅団司令部 (小倉北区)

清を仮想敵国とした軍拡の中、1885年、小倉城内に「歩兵第12旅団本部」が開設され、城内の歩兵第14連隊を指揮下におさめました。

86年、新設の歩兵第24連隊（福岡）を指揮下に加えました。88年、本部を「司令部」と改称しました。日清戦争では、第二陣として出動し、旅順で終戦を迎えました。96年、新設の歩兵第47連隊（北方）を指揮下に加え、24連隊は新編の「歩兵第24旅団」（久留米）に所属変更となりました。

98年「第12師団」の小倉新設により、同師団の指揮下に入りました。日露戦争では第一陣として出動し瀋陽付近で終戦を迎えました。1925年、12師団の久留米移転で旅団も移転、留米には下関の「野戦重砲兵第2旅団司令部」が入居しました。28年司令部が旧12師団司令部庁舎に移転後、庁舎は小倉市に売却され、36年「小倉市立記念図書館」になりました。

戦後は連合軍の接収を経て解体され、門柱のみが現存しています。

「いつも頑張っていてくれてありがとう」でも、Aじゃない 「勤務成績の賃金リンク」は、さうさう、もやもや

教育委員会は、給与改定交渉で令和7年度から勤務成績の賃金リンクを導入すると明らかにしました。賃金リンクについて全教北九州に寄せられた声の一部を紹介しましょう。

何をどうしたらA評価？

来年度の評価でA評価の人は、翌年の昇給が5号給アップになると聞いた。(普通は4号給アップ)どんな人がA評価なんだろう？自分は、とても頑張っているし、校長先生から「いつも頑張ってくれてありがとう」と声をかけてもらっている。でも、今までA評価をもらったことはない。何をどうしたらA評価になるんだらう。テストで100点取ればよいというわけでもないのに。

職員室で戦々恐々の日々

うちの職場は、管理職の職員に対する態度が人によって違う。お気に入りの人と、それ以外、また、気に入らない人と、明らかに態度が違う。自分は今「それ以外」のような気がするが、いつ、「気に入らない人」に入ってしまうのか、戦々恐々。「いじめを許さない」学校で、職員室が安心できない場所だなんて！そんな管理職に評価されるって、怖い。

管理職は何を評価する

管理職が、教室に回ってこない。指導の様子や、子どもたちの様子や、子どもとの関係や、そんなことを観なくて何を評価しているのだろう。Bの中のCを探すんです！

A評価の人は10%いるらしい

A評価の人は10%いるらしい。絶対評価と聞いていたが結局は相対評価。「あゆみ」をつけるときに「Aが多すぎますよ。もっと絞ってください」「いや、うちのクラスの子はテストも満点。発表もよくするんです。減らしようがありません。」「他の観点でも差を見つけて減らすんです。」「とか、「どうして、この項目にCの子がいらないんですか？」「みんな、評価の基準はクリアしています。」「Cがいなくていいことではないでしょう。Bの中のCを探すんです。」「みたいな管理職とのやりとりが頭をよぎる。10%以上いることもあるし、全くいない場合もあるのでは？

不思議でしかない

担任、担任外、兼務、養護教諭、事務職員、栄養教諭って仕事内容は多岐に渡るのに、そこからA評価ってどうやって選ぶのか、不思議でしかない。

教育委員会は教職員の思いに寄り添った対応を 内示即発令には反対！校種間異動は、本人の意向を重視して

私たちが健康で安全・安心して働ける職場の実現を願うことは、労働者として当然の権利です。人事異動は、私たちの日常生活や健康保持・労働条件と密接に関連しています。全教北九州は、教職員の生活・健康実態に十分配慮した異動と本人の合意・納得が得られる異動を要求しています。

今年度も、校種間及び広域的な異動を積極的に行うとしています。それに加え、「全ての教員が、特別支援教育に関する理解を深めるため、キャリアの中で、特別支援教育にかかわることができるよう配慮する」という文言が付け加えられました。

「小中学校で、特別支援学級や交流学級を経験することを増やす」ことが趣旨ですが、

組合には、校種間異動・広域異動による日常生活・労働環境の悪化に困っている話や相談が後を絶ちません。

全教北九州は、校種間異動の際は、内示前に本人の意向や希望などをきちんと確認するなど教職員の思いに寄り添った対応と内示即発令としないよう要求しています。

午後、中央決起集会が開かれました。小畑全労連議長挨拶、国会議員挨拶、行動提起、決意表明がありました。その後、小雨の中、国会請願デモを行いました。

終了後、九州選出の参議院議員を訪ね要請書の趣旨説明と地域・現場からの意見も添えて要請を行いました。

低賃金と物価高騰から生活守れ 賃金上げろ！最低賃金画一実現！軍拡・増税ではなく、憲法をいかに、社会保障の拡充を

11月10日

中央行動(東京) 決起集会・デモ行進・国会議員要請行動に参加

11月10日(金) 国民春闘共闘・全労連・東京春闘共闘・国民運動実行委員会主催の中央行動が行われました。全教北九州市教職員組合からも代表が参加し、決起集会・デモ行進・国会議員要請行動に参加しました。

午前は、「全教7つの提言」にもとづく文部科学委員への議員要請を全教独自でおこないました。

午後、九州選出の参議院議員を訪ね要請書の趣旨説明と地域・現場からの意見も添えて要請を行いました。

